

AE 減水剤・促進形（I種）

フローリックA

フローリック A は JIS A 6204（コンクリート用化学混和剤）AE 減水剤促進形（I種）に適合する AE 減水剤です。

フローリック A を使用すると、セメントの水和反応を促進する作用により、寒中コンクリートや早期脱型が必要なコンクリート工事等で、コンクリートの初期強度の確保に貢献します。また、カルボン酸塩系化合物の湿潤・浸透・分散作用によるセメント分散と安定した空気連行作用により、コンクリートのワーカビリティを確保しつつ、単位水量を低減し、より高い強度発現性および凍結融解抵抗性・水密性の向上、中性化の抑制等、耐久性の向上に効果的に寄与します。

性状

主成分	カルボン酸塩系化合物 アミン系化合物
外観	褐色液体
塩化物イオン (Cl ⁻) 量	0.01%*
アルカリ量	4.30%*
密度 (g/cm ³)	1.13 ~ 1.17

(*分析値例)

特長

- 外気温が低温下においても、初期強度の確保に貢献します。
- 分散・空気連行作用により、単位水量を低減でき、コンクリートのワーカビリティを良好にします。
- 環境温度 20℃程度において、AE 減水剤・標準形（フローリック S）を使用した場合に比較して凝結時間が 60 ~ 80 分程度早まります。
- AE 減水剤・標準形（フローリック S）を使用した場合に比較して初期強度は高くなり、その程度は環境温度 20℃程度における材齢 3 日の圧縮強度で 10%程度です。
- コンクリート中の鉄筋、鋼材等の発錆の原因となる塩化物を含んでおりません。

使用方法

- フローリック A の標準使用量はセメント質量に対し、1.0wt%ですが、使用目的に応じて 1.0 ~ 1.2wt% の範囲でご使用下さい。
- フローリック A は単位水量の一部として計算して下さい。
- 連行空気量が少ない場合には、当社の AE 助剤をご使用下さい。
AE 助剤の使用量は、当社担当者にご相談下さい。

使用上の注意

- 使用量は所定標準量になるように管理してご使用下さい。
過剰に添加されますと空気量が過大となり、コンクリートの強度低下を起こします。またフローリック A を標準使用量の 3 倍以上使用しますと凝結時間が相当遅れますのでご注意ください。
- 冬期には凍結にご注意ください。

荷姿

タンクローリ

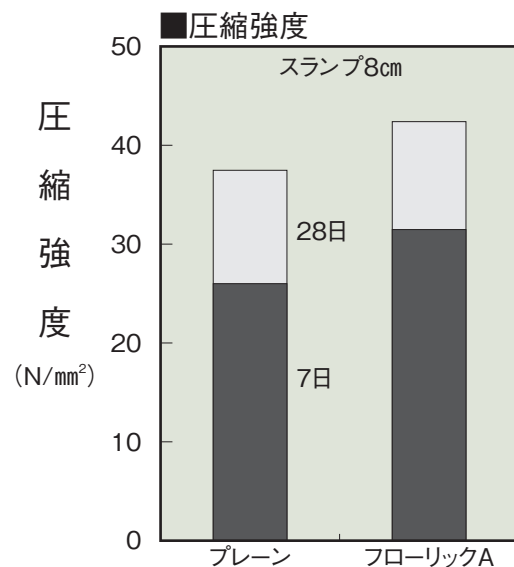
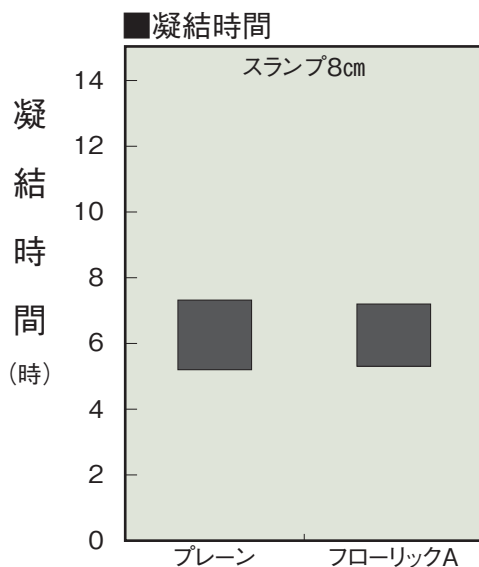
JIS A 6204による試験結果

- 試験条件 スランプ 8cm
 単位セメント量 (kg/m³)300
 スランプの範囲 (cm)8±1
 空気量の範囲 (%)基準コンクリート+ (3.0±0.5)

試験結果

項目	AE 減水剤 促進形 I 種	
	JIS A 6204 規定値	フローリック A
減水率 (%)	8以上	13
ブリーディング量の比 (%)	70以下	57
凝結時間の差 (min)	始発	+30以下
	終結	0以下
圧縮強度比 (%)	材齢 7 日	115以上
	材齢 28 日	110以上
長さ変化比 (%)	120以下	102
凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)	60以上	90
塩化物イオン量 (kg / m ³)	0.02以下	0.00
全アルカリ量 (kg / m ³)	0.30以下	0.13

- 使用材料 セメント：普通ポルトランドセメント 3 種等量 混合密度 3.16 (g/cm³)
 細骨材：掛川産陸砂 密度 2.59 (g/cm³) 吸水率 2.05% FM2.80
 粗骨材：青梅産碎石 密度 2.67 (g/cm³) 吸水率 0.46% FM6.74



取扱い上の注意

- フローリック製品が皮膚に付着した場合には、清水で洗浄して下さい。
- 飲み込んだ場合には、直ちに吐き出し、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 目に入った場合には、清水で洗眼し、医師の診断を受けてください。
- 詳細な内容が必要な場合には、安全データシート (SDS) をご参照下さい。